



ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター 養成プログラム

金沢大学教育訓練プログラム
ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター養成プログラム

※本プログラムは、厚生労働省からの委託により開発・検証しています。

Business Creative Coordinator

金沢大学教育訓練プログラム

ビジネス・クリエイティブ・コーディネーター
養成プログラム

第4次産業革命が進展し、Society5.0の実現に向け、様々な変革がおきています。

これらの変革に対応するため、業界の枠を超えたネットワークを構築し、新しい価値を創造することが必要となってくることが予想されます。

そこで、本プログラムでは、企業・業界の枠を超えた「共創」により、新しいビジネスの創造を目指す「コーディネーター」を養成するとともに、本プログラムの実施を通じて、多様な立場や価値観を有する受講生同士の「出会いの場」を提供します。



目指す人材像

- 人と人、人と技術、人と社会、様々な組合せを紡ぎ、新ビジネスを生み出すイノベーションに取り組む人材
- 課題検証を行い、その解決に向け、共感を持って人を巻き込み行動する人材
- 顧客目線でアイデアを考え、自社以外のコンテンツを有効に活用、メディアやSNSに向けた情報発信を行い、多様な人を巻き込むことで事業拡大を達成する人材

身につく力・スキル

課題検証力

ビジネスチャンスに立ちはだかる壁（課題）を検証し、適切な解決方法や課題と向き合う力

探索力

最新の情報や質の高い情報につながる力

巻き込み力

コミュニケーションスキルや共感センスを有し、支援のネットワーク（仲間、応援団）を構築する力

企画発想力

他者（社）の企画をつなぎ合わせるような編集思考・マスコミやSNSを見方につけるようなストーリー思考を有して企画する力

事業推進力

巻き込んだ方々をまとめあげ事業を推進するファシリテーション力、事業を推進し続けていく行動力



想定する受講者の例

- オープンイノベーションを推進したい企業（アクセラレーター・プログラムを実施する企業）に勤務する社会人
- トrendや新技術に注目し、当該分野でのアライアンスや新規事業を行いたい企業に勤務する社会人
- 製造業のサービス化（価値共創業化）に対応したい企業に勤務する社会人
- 人的ネットワークが主に自社内に限定されており、ネットワークを広げたいと考えている社会人
- 社内に新規提案するも、企画力・提案力が及ばず却下される。その現状打破にチャレンジする人
- とくに業界の専門家や情報収集のネットワークを理解し、つながっておきたい社会人
- 社内あるいは地域社会における、20代後半～30代の次世代リーダーを目指す人



提供するカリキュラム

スタートアップ研修

- ・コーディネーター人材による基調講演
- ・受講者間のアイスブレイク、チームビルディング
- ・ICT教材で学ぶにあたっての留意事項について

ICT教材

「新たな価値共創のためのしごと論」

- ・ビジネストrend（SDGs、地域特性、新技術等）を活用する視点を身につけます
- ・コーディネーションのための思考回路をつくります
- ・ICT教材を視聴しレポートを作成します

コーディネーション学概論

- ・最新の情報収集のやり方や異業種とのつながり方などコーディネーターとして必要なスキルを身につけます

[具体的な内容]

1 ICT教材で提出したレポートをベースに、受講者間で意見交換を行います。

2 コーディネーターとして必要なマインドセットを身につけます。

3 事業プランの書き方やデザイン思考など、最終成果の発表（ストーリーテリング研究）に向けての基礎を学びます。

4 最新の情報等をチームで調べて、ミニプロジェクトをつくります。

コーディネーション学演習

- ・実践的なコーディネーション能力を身につけます

[具体的な内容]

1 体験演習

テーマ：新技術（ブロックチェーンなど）が地域でどう活かされているか、SDGsにどう繋がっていくかを現地で検証します。

2 ケースメソッド演習

テーマ：題材（条件）を選択させ、その条件下で、どのようなコーディネーションを行うのか、どのようなサービス・商品を提案できそうかを考えて、実際にロールプレイングとして行います。

ストーリーテリング研究

- ・課題解決に向け、他社の技術等を活用し新事業を構築する力を身につけます（「私だったらこうする」を考えます）

[具体的な内容]

1 新規事業・コラボ事業の立ち上げを担当することになった場合、どのようなストーリーを作成し、他社を巻き込んでいくのかの企画書及びプレスリリースを作成し、プレゼンを行います。

2 途中経過プレゼンを行い、受講者間でもフィードバックをしようことで、様々な角度でビジネスを考える視点を身につけるとともに、自分たちのプランをよりよいものにしていきます。

プランづくり → 中間プレゼン → ブラッシュアップ → プレゼン